令和８年７月２８日

同窓生の皆さま

函館ラ・サール学園図書館

図書局お礼状・報告書の送付について

盛夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

先日行われました、「七夕キャンペーン」ならびに学園祭での「読書の森の散歩道（古本市）」では、書籍の寄贈をしていただき、同窓生の皆様には大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

「七夕キャンペーン」の対象は、学内で生徒のみでの実施。「読書の森の散歩道」は、学内外問わずの開催でしたが、おかげ様で、どちらも盛会のうちに終了することができました。

これもひとえに同窓生の皆様のご支援あってのことと、改めて感謝いたしております。

なお、いただいた書籍は基本的にこの企画で使用させていただきましたが、一部書籍につきましては、生徒たちの強い希望もあって、本校図書館に配架させていただきました。

今回の両企画に関して、生徒たちとともに報告書を作成しましたので、図書局長のお礼状とともに同封いたします。当日の様子がわかる写真も添付しているほか、生徒の感想も記載しております。ぜひ、ご一読ください。

今後とも変わらぬご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

函館ラ・サール学園図書館

２０２６年７月２８日作成

図書局活動報告

1　図書館利用促進『七夕キャンペーン』

○企画趣旨

・図書館の利用促進。

→来館者増というだけでなく、図書貸出冊数を増やす。
そして確実に返却するという習慣を身につけてもらう。

・函館の七夕文化の周知

→市外・道外からの進学者に函館の民俗的文化「ローソクもらい」について知ってもらう。

NEW⇒図書局・図書委員による函館の七夕文化についての掲示物の作成。図書室前の壁に掲示。

○企画概要

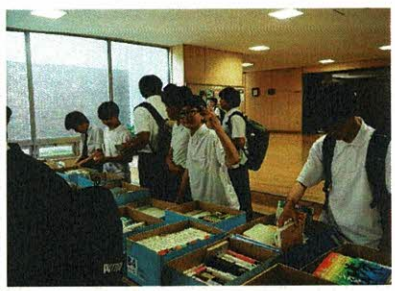
・実施期間：２０２６年６月２４日（水）～７月７日（火）
・上記期間内に図書の貸出*・返却を行った生徒に対し、短冊を渡す。
・短冊には貸出と返却で２種類のスタンプを押す。スタンプが２種類集まった生徒には、短冊に願い事を書いて図書室内に設置した笹に飾ってもらう。
・飾った生徒には「七夕参加証明書」を渡す。
・飾った生徒には、７月７日（火）七夕当日「ローソクもらい」と称した本一冊とお菓子配布を行う。「七夕参加証明書」と引き換え。
・証明書は何冊借りて返そうが、１枚の発行に限る。

（＊）貸出は７月６日（月）まで。

○実施の様子

△図書室内に設置した笹飾りのほか、北海道・函館の七夕文化についての掲示を作成。

△７月７日の放課後、図書館前ホールにて「七夕まつり」開催。



△先輩と一緒に本を選ぶなど、生徒の笑顔がたくさん見ることができました

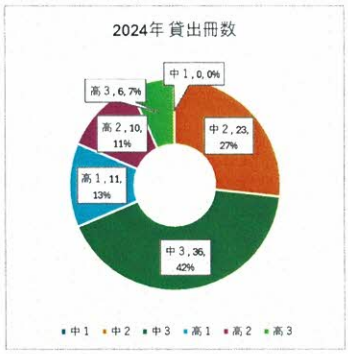
○参加した生徒の意見
・昨年好きな本をもらえたので、楽しみにしていた
・函館ではロウソクもらいというイベントがあることを初めて知った
・本がもらえて、嬉しかった。(多数)
・気になる参考書がいくつもあって悩んだ。
・小説（文庫本）が昨年よりもたくさんあって悩んだ。文化祭も楽しみになった。
・函館出身のため、ロウソクもらいには馴染みがあるが、中学生になったので、もう参加できないと思っていた。学校でイベントをやってくれて嬉しい。これかも伝統として続けてほしい。

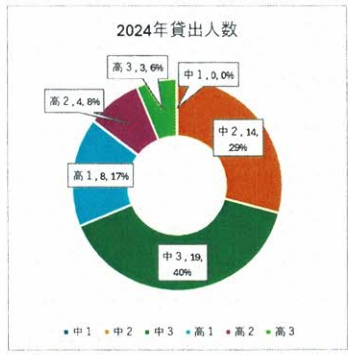
○図書局・図書委員の生徒の振り返り
・中学１年生の利用がキャンペーンの開始前より増えた。
・本を読まない生徒でも雑誌の貸出をできると知り、図書の利用データに反映されないが雑誌の貸出も増えた。
・前年と同じく中学生の参加者は多かったが、高校生が少なかった。貸出冊数を見てもわかる通り、高校生の利用者自体少ない。高校生の参加者を増やしたい。
・図書館を利用するきっかけを作ることに成功したように思う。
・貸出時にチェックをしていれば、七夕参加証明書は不要かと思ったが、七夕当日に引換にすることを考えるとあったほうがいい。七夕当日は忘れた人の確認作業はできても、全員への対応は難しい。次年度もこのままの方法が望ましい。
・同窓生の協力（提供）もあって、本の種類が増えてよかった。
・準備の時、もう少し高校一年生と協力すればよかった。

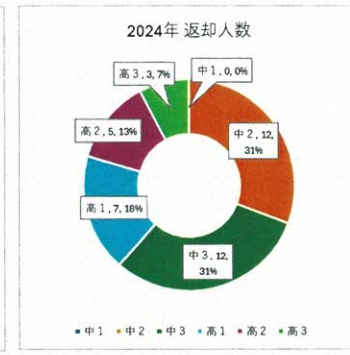
○図書局・図書委員による七夕キャンペーンの振り返り報告文
・１年Ｂ組　小澤　諒也
２０２６年、今年も図書局・図書委員で七夕キャンペーンを行いました。本を借りて返した人にはお菓子と古本をプレゼントして、短冊を飾りました。個人的に印象的だった願い事は「アブラゼミが爆発四散しますように」でした。
実施は例年通りに行われたと思います。でも違ったことと言えば、借りにきた人数が若干減ったことです。七夕キャンペーンは中高合わせて生徒に本に興味を持ってもらうことが目的です。まだ改善の余地があると思いました。
しかし改善の余地と言えど、不足していたものは七夕キャンペーンとは何か、まず図書館にはどんな本があるのか、などの宣伝不足があげられますが、宣伝はこれ以上してもあまり意味がないのではないでしょうか。というのも朝のホームルームでも全員に伝えられているはずなので、それを知っているが行く気がないということになります。一度だけでなく、終わり間際にも宣伝をすべきだったのかもしれません。ただそれ以上に、そもそも本そのものに興味がない、またはそれらの内容を知らないから興味がない、ということが原因かもしれません。そのため、古本の内容の一部を公開し、人気の本は早い者勝ちのようにして、心理的に多くの人に七夕キャンペーンの参加を促すべきかもしれません。
今回配った古本の多くは OB からもらったもので、後輩として有用な本はありがたくもらうべきだと思います。ちなみに僕のもらった原子に関する本はまだニホニウムが発見される前の内容で、大変古くこれはこれで面白いと思いました。
図書委員としては次年度も実施はしたいと考えますが、今年度の反省を生かし、より多くの人に参加してもらうように皆で考え、尽力したいです。

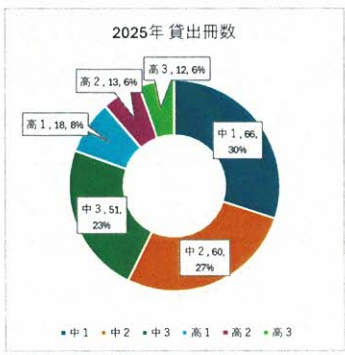
○利用状況比較

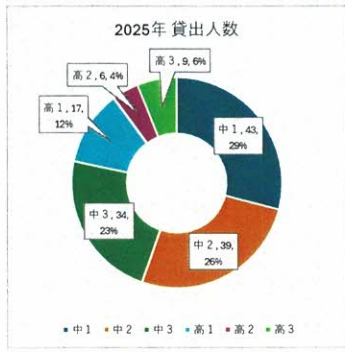
・２０２４年・２０２５年同時期

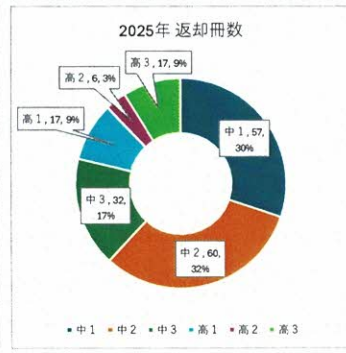


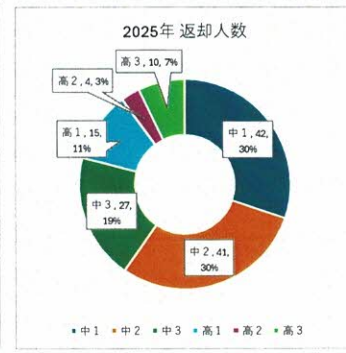


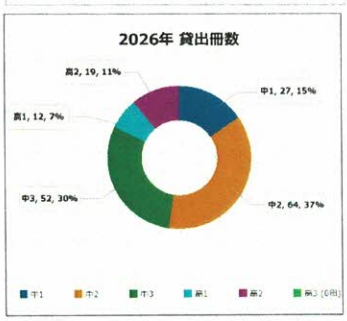


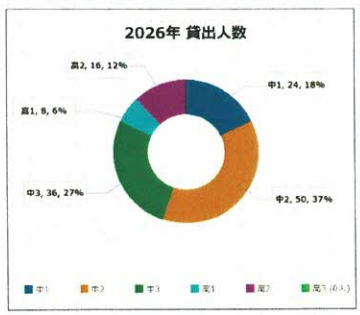


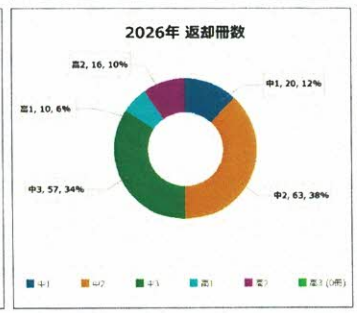


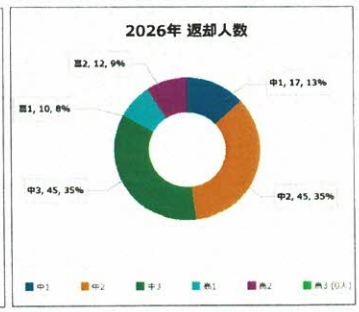


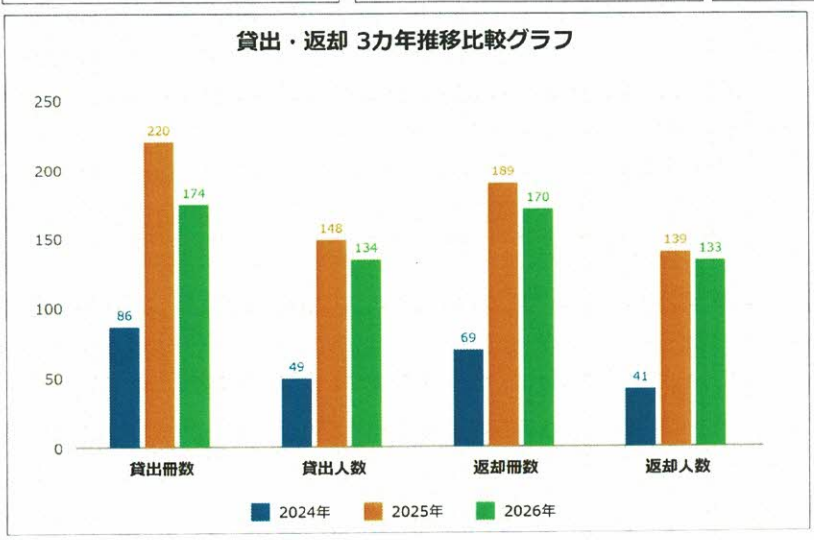












２．学園祭「読書の森の散歩道」

○概要

・実施日：２０２６年７月１８日（土）、１９日（日）

・内　容：古本市

（※）校則により、生徒による販売は禁止のため、
あくまでも来場者には希望する本を差し上げる企画。

（※）コロナ前まで実施していた。

○用意した本の冊数　　１，３０５冊

・同窓生・教職員への声掛けにより、７３９冊の本を提供していただいた。

・七夕キャンペーンで今年頂いた本を利用したため、７３９冊から本は若干減ったが、昨年の残りと合わせて１，３０５冊となった

・本の内訳は以下のとおり。

	総記／哲学	歴史／産業	社会科学	自然科学	医学	芸術	言語	文学	文庫本	新書	計
用意した本の数	39	21	42	33	17	89	78	141	696	149	1305
贈呈数	19	20	11	32	15	49	32	41	253	98	570

※「総記／哲学」「歴史／産業」は、それぞれ分類が異なるがスペースの都合上一箱にまとめたため、同じ括りになっている。

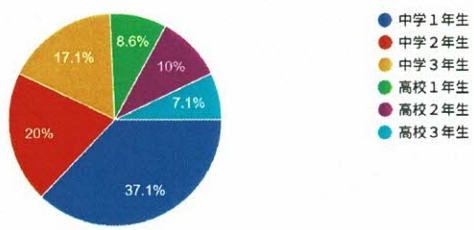
○来場者数

来場者数	7月18日	7月19日
9:00-10:00	-	41
10:00-11:00	-	26
11:00-12:00	48	46
12:00-13:00	54	42
13:00-14:00	69	44
14:00-15:00	29	-
15:00-16:00	34	-
計	234	199

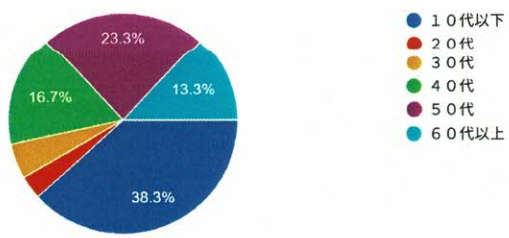
延べ人数 433 人（昨年より 127 人増）

○来場者でアンケート回答者の本校生徒学年割合、本校生徒以外の年齢割合

・本校生徒学年割合



・本校生徒以外の年齢割合



○来場した生徒の意見（アンケートより抜粋）
・英語力向上に役立っています。ありがとうございます。
・また来年もお願いします。
・こういうのをもっとやってほしいです
・自由の好きな本をもらえるところがいいと思いました。家に帰ったらさっそくよみたいです。
・結局二日あわせて十冊ももらってしまった・・・
・来年古本市楽しみにしています。
・気になる本がいっぱいあって面白かったです！！

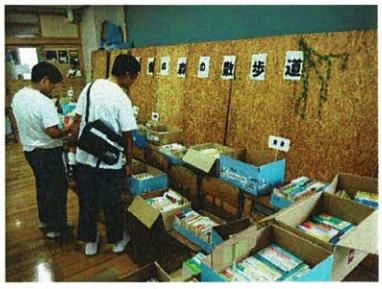
○来場した生徒以外の意見（アンケートより抜粋）
・去年も頂き、ありがとうございました。今年で卒業（マゴ）なので、残念です。良い本をありがとうございました。
・学生時代の図書室を思い出しました。どうもありがとうございました。思わぬ名著に出会えました。
・文化祭の喧騒の中で静かに本と向き合えたこと感謝します。心が落ちつきました。
そして本校の生徒たちが多数本好きだと知って嬉しくなりました。
・小４です。本が好き
・高校生の時読んだ本は２０代の航路を定め、30代を作ったように思います。素敵な本との出会いがありますように。
・魅力的な本が多すぎて悩みました。古い紙のにおいを感じられて幸せでした！
・OB（中学1期、高校43期）です。図書館は一番大好きな場所でした。大学は進んでからわかりましたが、函ラの図書館は蔵書数ジャンルの幅広さ、保管状態のよさのいずれも相当なものだと思います。是非たくさんかつようすることをお勧めします。

○図書局・図書委員による振り返り
１年Ａ組　篠村　隼汰
　古本市を通して私が学んだことは、何事にも興味を持ち、まずは一度やってみることの大切さです。
　今回、私は図書局の一員として、初めて古本市の運営に全力で取り組みました。本をジャンルごとに分けたり、それらを教室まで運んだりする作業は、精神的にも肉体的にも大変でした。しかし、先生や先輩方と協力しながら準備を進め、無事に古本市を開催することができました。
　しかし、１日目の昼頃、自分のシフトの時間に前の時間帯の来客数を確認すると、あることに気づきました。
―来客数が少なくないか？―
　もっと多くの人に立ち寄ってほしいと思った私は、一つのアイデアを思いつきました。
―ほかのクラスは教室の外で受付をしているじゃないか！―
　そこで、教室から机と椅子を一つずつ運び出して外に設置し、
「古本、お持ち帰りできます！　人生を変える一冊を見つけましょう！」
と声をかけました。すると、通りかかった人たちは笑いながらこちらに向かってきて、
「入ってもいいですか？」
と声をかけてくれました。
「はい！　ぜひ！」
　そう答えると、在校生に限らず多くの人が教室に入ってきて、本を手に取りながら楽しそうに選んでいました。そして、何冊かの本を持って教室を出るときには、
「ありがとうございます。」
と言って帰っていく姿が印象に残っています。最終的には、その時間帯の来客数がそれまでで最も多くなり、多くの方に本との出会いを楽しんでもらうことができました。

今回の経験を通して、自分で考えて行動することだけでなく、周りの人の行動にも興味を持ち、良いと思ったことは積極的に取り入れて実際にやってみることが大切だと改めて感じました。そのような挑戦が、新しい発見や人生を変えるきっかけにつながることもあると思います。

来年も、OBの方々にご協力を仰ぎ、提供していただいた本が新たな読者と出会い、その人の人生に良い影響を与えられるような古本市にしていきたいと思います。

○実施の様子



△開場してすぐにお客さんでいっぱいになりました。

今年は、図書局でこれまで発行した図書局便りと七夕キャンペーンの報告書を掲示しました。

△多くのお客様が来場してくださり、真剣に悩む人、クラスメイトと談笑しながら選ぶ人など、本との一期一会の出会いを楽しんでいる様子がうかがえました。